

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000440		
法人名	宗教法人 真正寺		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	小樽市長橋2丁目19番28号		
自己評価作成日	平成28年2月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000440-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 3 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、お寺にて経営を行っております。仏教は「すべてはご縁によって起る」ことを説き、ご縁を大切にすることを教えといわれます。全ての頂いたご縁は、私達の都合を差しおいて正面から受け止め、前向きに生きることを勧めながらケアを行っております。
お一人お一人の個性や気持ちを大切に、何事もご縁から始まる事ですので共に協力し合いながら生活を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【理念に沿ったサービスの徹底】
「個性」・「触れ合い」・「笑顔」・「家族」を基本とする理念を職員は理解し日常業務に反映させているためホーム内は明るく笑顔があり、優しさ丁寧なサービスにより利用者や家族との信頼関係が構築されています。
【自己評価の真摯な取り組み】
2年ごとの外部評価調査に対して各ユニット毎に自己評価を行い、さらに全職員で検討し、難しい取り組み状況も率直に表現するなどホームとしての自己評価表作成に真摯に取り組み、ケアサービスに活かしています。
【災害対策の強化】
近隣グループホームとの相互協力や隣接のデイサービス及び運営法人を避難場所として確保し、調理場利用及び発電機の借用、非常持ち出し袋等備蓄品確保など災害対策の充実・強化に努めています。
【暮らしに便利な生活環境】
都心から僅かな距離に位置するホームは、運行本数の多い路線のバス停やスーパーなど商業施設に近く、暮らしに便利な生活環境です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目：23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいの				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいの				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

有限会社 ふるさとネットサー

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をフロアの目につく場所に掲示することで、共有し、意識し仕事が行えるようにしておりますが、実践につなげる事が不足している時もあります。	「個性」・「触れ合い」・「笑顔」・「家族」を基本とする運営理念をエレベーターやロッカーなど建物内随所に掲示しています。職員は、理念を基にした目標設定と実行に努め、ケアサービスに反映させています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域行事への参加を通して、日常的ではありませんが、交流を行っております。入居者様の直接的な交流は施設行事で多少の交流がある程度です。	運営法人と系列のディサービスが隣接しているため周辺住民と触れ合う機会が多く、地域のお祭りへの職員の協力、住民から食料品や飾り物の差し入れ、子供御輿の立ち寄り、中学生の体験学習受け入れなど地域との日常的交流があります。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階では、地域の方々に対して活かす機会は特にありませんが、今後機会があれば活動を行っていきたくと考えております。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開いており、年間行事の進行状況や近況報告、意見交換を行うことにより、サービスの向上を行っております。	2ヶ月毎に開催している運営推進会議は、家族が参加しやすい曜日や時間と会議後の行事開催など工夫によって行政関係者と多勢の家族や利用者が参加しています。会議での意見や要望等は内部で検討し、サービスに反映させるよう努めています。	会議議事録を全家族に送付していますが、会議不参加の家族へ会議内容を知って頂くために分かりやすく具体的な内容の記載について検討を期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜連絡を取るようしており、協力関係を築いております。	運営推進会議に市職員の出席があり、介護関連部署の市職員来訪時には管理者が意見交換を行っております。また、書類提出等で随時、担当窓口を訪れて相談を行うなど行政との連携協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯の為、玄関の施錠を行っております。身体拘束に対する知識の理解しており、職員個々が身体拘束を行わないようにしております。	身体拘束をしないケアの外部研修受講者が内部のミーティングやカンファレンスで内容を伝達し、業務を通じて管理者がアドバイスを行うことで職員は理解し、実践しています。外出には玄関内側の解錠センサー接触が必要ですが、必ず職員が同行して利用者に閉塞感や不自由感を与えないようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、高齢者虐待防止の内部研修の中で行っており、虐待防止の意識は職員個々にもって防止に努めております。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業を利用している入居者様もあり、知識については不完全な部分もありますが、適宜相談し支援を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの際は説明を行い、疑問点や不安な点の有無をこちらからお聞きし、それについてしっかり回答しております。それにより、理解、納得してもらえるようにしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に行っている運営推進会議、面会時にご意見、ご要望をお聞きし反映させるようにしております。ご意見やご要望が全て頂けているとは考えられないので、出しやすい環境づくりが課題と考えております。	運営推進会議や家族のホーム来訪の際に利用者の様子等を伝え、ユニット単位の通信及び一人ひとりの個別お便りを郵送しています。家族からの要望等は速やかに内部で検討して運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員の意見や提案を受けけるようにしており、状況に応じて可能な限りは反映してもらっております。	職員間のコミュニケーションは良好で、自由に意見や要望等を話し合っています。また、運営法人の副住職など複数の法人関係者がホーム現場で業務に携わっているため、職員からの意見や提案が法人本部へスムーズに伝わっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一部の職員より不平不満はありますが、法人としての出来ることはその時に応じて行ってもらっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を行っており、各職員の力量に応じて、研修への参加を通じてスキルアップを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	協議会主催の研修などに参加し、交流や意見交換を行い、サービス向上に努めております。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、出来るだけお話を聞きます。ご本人からお聞き出来ない場合はご本人の事を知る方からお話を聞き、それからサービスを開始するようにしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、不安な事や要望を確認し、不安な事は解消できるようにし、要望もできる限りお応えできるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・担当ケアマネジャー・病院などからの情報を元に支援の方向性を検討しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、全ての入居者様ではありませんが食事の盛り付けや、家事のお手伝いをお願いするなどのその方の出来ることは行ってもらうようにし共同生活を送っております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に情報交換を行い、面会が頻繁に行えないご家族には、電話やお手紙で情報提供をしております。また施設行事ではご家族に協力してもらっております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全ての入居者様に対してではなくまた頻度は少ないですが、ご家族の支援のもと外出されており、継続できるよう支援させてもらっております。	利用者の生活歴を把握して、馴染みの美容院やお店等を把握し、外出希望には職員が付き添い支援をしており、家族と墓参りなどの例もあります。知人等の来訪時にも暖かく歓迎してゆっくり過ごせるように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係が良い、悪いがありますが、関係が悪化しないよう努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っておりませんが、必要時は相談、支援を行いたいと考えております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと日々のコミュニケーションの中で希望や意向の情報を収集し、出来る限りの把握に努めております。ただし、意思表示が難しい方もおりますのであくまで出来る限りの把握となっているおります。	職員は、ケアサービス時の様子観察や会話からから思いや意向を把握していますが、把握困難な時は家族からの情報、各種記録の確認、職員間の相談などを行い、本人の嫌がることは避けるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはご本人やご家族、各関係者から情報を提供してもらっており、入居後もご本人、ご家族よりお話を聞き把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、表情や様子の観察、バイタルチェックをさせてもらっております。また会話の中で状態をお聞きできる方からは確認させてもらっております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の職員間のコミュニケーションで情報交換や意見交換をできる限り行っており、それらを反映するようにしております。しかし、まだ不十分な部分もあるのでより意見やアイデアを反映できるようにしたいと思います。	日々のモニタリングや介護記録などで利用者の状態を把握し、カンファレンスで介護計画見直しの有無を検討しています。計画見直しの際は家族の意見や要望を尊重し、利用者の現状に即した計画作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録記入を各職員おこなっており、一日三回の申し送りで記録の確認を行い情報交換を行いながら、実践や介護計画に活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所経営のデイサービスに遊びに行かれたり、また経営法人のお寺にて行事を行ったりしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内、市外からの中学生職場体験学習の受け入れや当事業所の経営法人である寺を活かした支援など出来る限り行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より利用されていたかかりつけ医の利用をご本人やご家族の意向に沿うかたちで利用してもらえよう支援させてもらっております。	ユニット毎に月2回の協力医療機関による訪問診療が行われています。従来からのかかりつけ医等への通院には家族と職員又は職員のみで付き添い支援を行い、受診結果を把握してケアサービスに活かしています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週三回看護師が出勤しており、報告・連絡・相談を行い連携をとっております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員と医療機関関係者が情報交換をしっかり行うようにしております。また、入院中も面会時に医療機関関係者よりお話を聞き情報を得て、退院後にスムーズに施設の生活に戻れるように努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、ご家族と当施設での看取りを行うか、医療機関への入院をするべきか検討を行っております。当施設の看取りの指針を説明し、「出来ること」「出来ないこと」を理解してもらったうえで同意していただいております。	入居時に重度化と終末期の指針を説明し、利用者の状態変化に応じて再度、家族と相談して看取りの同意書を頂き、医療機関と連携をとりながら支援しています。職員はホームの方針を理解して共有し、利用者の支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は行えてはおりませんが、緊急時は一人に対応するのではなく、報告・連絡・相談を周知している途中であります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っております。また、近隣のグループホームと協力体制を整えております。	年2回の避難訓練を実施し、避難場所として隣接の運営法人と系列のディサービスがあり、近隣グループホームとの連携協力体制もあります。さらに、非常持ち出し袋や備蓄品を備え、停電時には隣接施設の発電機や調理場の使用も可能であり、災害対策の充実・強化に取り組んでいます。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや入居者様の人格を尊重した関わり方の指針を職員の目に付く場所に掲示し、常日頃から意識はしておりますが、時折入居者様に対して強い口調になってしまっていることもありますので今後は更に気を付けていくことを課題と考えております。	職員は、ホーム理念に基づいて利用者の人格尊重とプライバシー保護の必要性を認識し、業務や話し合いを通して確認しながらケアサービスや声かけに十分配慮しています。個人情報に関連する記録や書類も適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能な入居者様には適宜自己決定していただけるように意識もってケアをしておりますが、職員の押し付けの部分もあるので改善を行っていきたいと考えております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事やおやつ、入浴時間はある程度決まっていますが、その中でもその方の生活習慣やペースは尊重しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はその方らしいものをご家族に用意してもらったりしております。また自己決定が行える方には着用する衣類の決定を行ってもらえるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態はその方が少しでも食事が苦痛にならないようにその方に合ったものを提供しております。また盛り付けなど食事準備が可能な方にお手伝い行ってもらっております。	ディサービスの調理専門職員による献立ですが、利用者の状態や嗜好に合わせて調理しています。一部利用者は簡単な作業を手伝い、職員と一緒に食事をしています。季節行事の特別食や家族と一緒にの食事会、寿司などの出前、外食など美味しく楽しい食生活を支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定の数値変化や服用している薬情報、血液検査の結果をもとに状態に応じた量やバランス、味付けで提供させて頂いております。水分もその入居者様の状態に合った提供方法をとっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方の状態に合った方法で口腔ケアを行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来るよう、排泄パターンを把握し、その入居者様に合った声掛けや誘導をさせてもらい排泄を行ってもらっております。	自立排泄が困難な利用者の排泄パターンを把握し、身体状況・使用医薬品・水分摂取量などを総合的に判断し表情や様子を見守りながらさりげない声かけ誘導でトイレ排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターン、形状、排便量をチェックすることで把握し、適宜飲食物、運動、下剤で対応させてもらっております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	三日に一度の頻度で入浴してもらっております。その方の体調や生活パターンを考慮して時間は変えております。ご本人の意思を尊重し拒否があった場合は日にちをずらして支援させてもらっております。	入浴は、週2回を基本とし、午前・午後の時間帯に実施していますが、利用者の体調や希望に応じて日時の変更も柔軟に行っています。時には入浴時に入浴剤や花・果物などの使用や音楽をかけて楽しく過ごせるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後など個々の生活習慣や体力を意識し休息してもらえるように支援させてもらっております。夜間も安心して眠ってもらえるように環境づくりを行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認し、薬の効能、副作用、用法、用量について把握しており、状態変化や症状の変化をチェックし、変化がある場合は適宜医師に相談しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大半は施設内ですが出来る限り、役割を持ってもらえるよう支援を行っております。夏場中心で、毎日ではありませんが、気分転換を兼ねて外気浴や散歩、ドライブを提供させてもらっております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行えてはおりませんが、天気の良い日には職員同行にて外出が可能な入居者様には散歩やドライブを提供させてもらっております。またご家族の協力のもとに外出されているもおります。	天候状態に合わせて、ホーム周辺散歩、近隣のお店で買い物や喫茶店利用の時もあります。車両による外出行事として桜や紅葉見学、水族館訪問等を行い、個別又はグループ単位でお祭り見学など希望の場所へ出かけるなど外出の機会を増やすよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在数名の入居者様が金銭を自身で所持しております。またご家族には紛失などトラブルのリスクの説明も行ったうえで所持してもらっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やり取りが可能な入居者様へは適宜、電話やお手紙でやり取りができるよう支援させてもらっております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清掃を毎日行っており、季節に応じた掲示物や飾りつけで季節感を感じてもらえるようにしております。	山並みの景観を楽しめる共有空間の居間は、温湿度管理や清掃が徹底され、季節の飾りや鉢植え、ソファなどで気持ちよくのんびりと過ごせるよう配慮されています。廊下・浴室・トイレ・玄関等の共有部分も十分な広さと清掃が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル、椅子の他にソファを設置しており、過ごされる場所の選択肢を増やし、出来るだけ思い思いに過ごしてもらえるようにしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清掃を定期的に行っており、家具なども入居の際に出来る限り使い慣れたものを持ってきていただくようにしております。	居室は担当職員による掃が行き届いており、利用者馴染みの家具類を好きなように配置し、家族の写真や季節の飾りなどに囲まれて居心地良く暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレートをその入居者様に合った分かりやすい物にし、トイレも分かりやすいようにしております。また床には安全を考慮しタイルカーペットを使用しております。		